

中丹のまなび15

～豊かに学び続け 未来を拓く力をはぐくむ中丹の教育～

CONTENTS

- 1 今求められている教育と
中丹の課題 ～学力調査の結果を踏まえて～
中丹プロジェクト21生活科実践事例
- 2 思いや願いを実現するわくわく楽
しい生活科の授業づくり
中丹プロジェクト21算数・数学科実践事例
- 3 主体的・対話的で深い学びに向
かう実践事例
- 4 「豊かに学び 未来を拓く力」を
はぐくむために
- 5 あなたの主体的な学びを
サポートします！



今求められている教育と中丹の課題

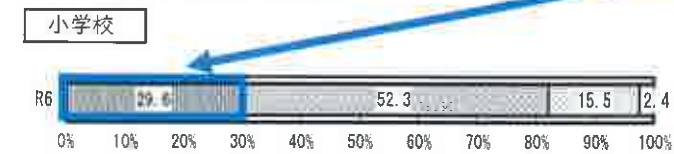
主体的・対話的で深い学びの実現に向けて

現行の学習指導要領が実施され、小学校では5年、中学校では4年が経過しました。「生きる力」の育成に向けた3つの資質・能力をバランスよくはぐくむため、中丹では、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を進めてきました。全国学力・学習状況調査の結果から、今後取り組むべき課題について考えてみたいと思います。

1 主体的な学びは学力向上の鍵！

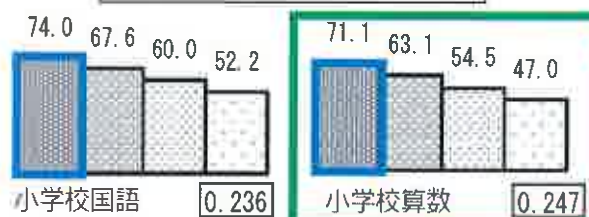
課題の解決に向けて自分から取り組んだ

5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいましたか。
(質問 児童〔30〕生徒〔30〕)



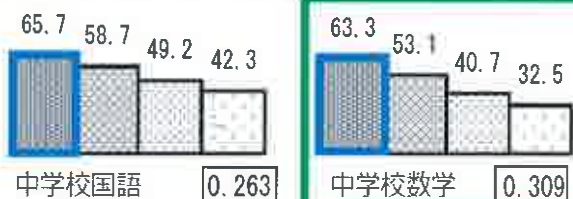
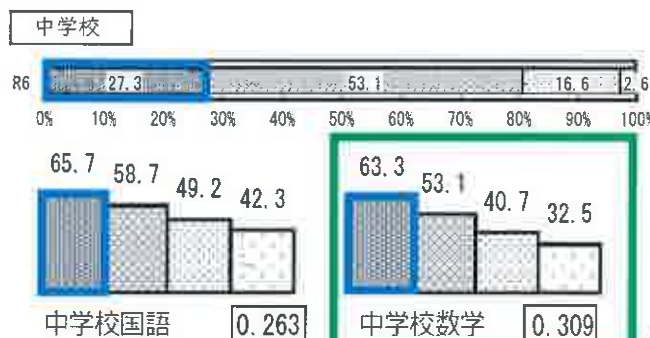
■ 当てはまる □ どちらかといえば、当てはまる □ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

選択肢ごとの教科の平均正答率(%)



※ 内の数字は相関係数
(係数0.2以上で相関が見られる)

③ 中学校の結果
を見ても同様の
傾向があります。



分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える

算数の問題が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。
(質問 児童〔55〕生徒〔55〕)

小学校	国語との相関 0.226 算数との相関 0.312	中学校	国語との相関 0.228 数学との相関 0.365
-----	------------------------------	-----	------------------------------

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果(概要), 調査結果資料 より一部抜粋: 国立教育政策研究所

これらの結果から、主体性や学びを調整する力と平均正答率には相関があることが分かります。児童生徒が、課題の解決に向けて主体的に取り組むためには、どのようなことを大切にしていけるとよいのでしょうか。

～学力調査の結果を踏まえて～

2 指導事項を踏まえた明確なねらいのある授業になっていますか？

中丹地域の府比経年変化 ～全国学力・学習状況調査より～



※ 数値は府を100としたときの中丹の値を表しています。

令和6年度全国学力・学習状況調査結果(概要)についてより一部抜粋: 京都府教育委員会学校教育課

調査の意義・目的

- ① 学校が主体的に指導や学習の改善等を行うことができる。
- ② 学習指導要領において重視される力を着実に子どもたちに身に付けさせることができる。
- ③ 自校の教育活動を具体的な指標に基づいて適切に評価することができる。

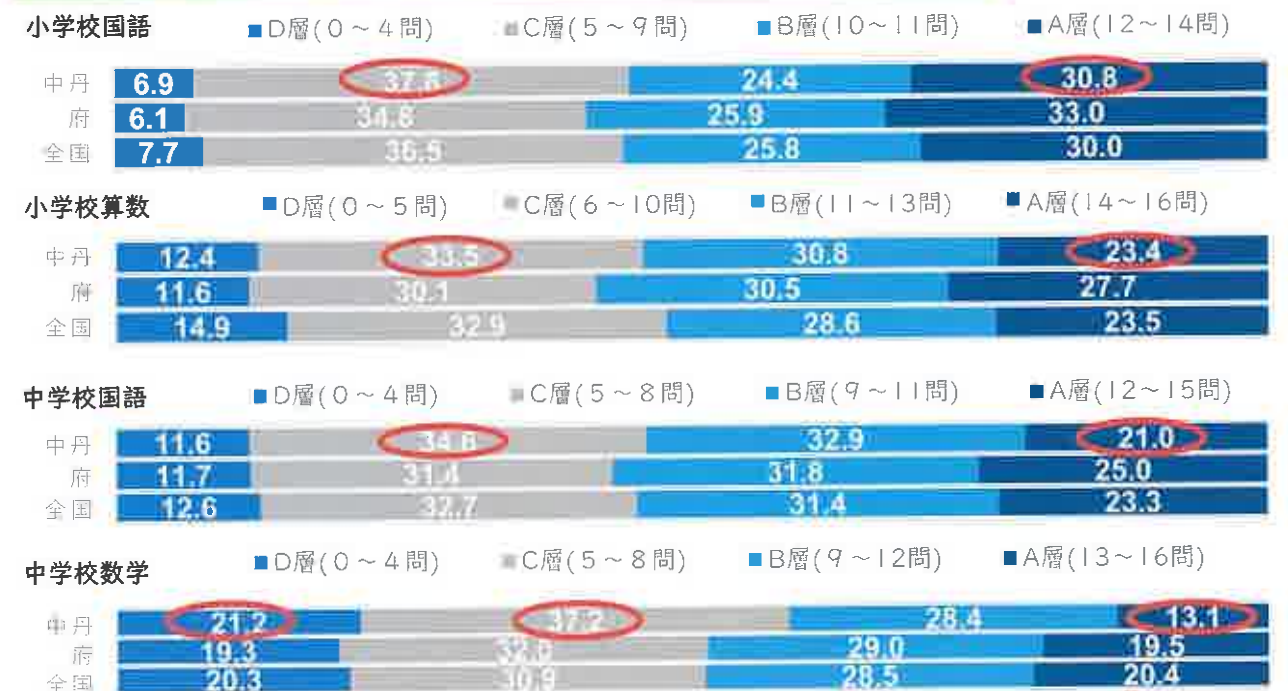
※ 全国学力・学習状況調査の問題は、学習指導要領が求める育成を目指す資質・能力を踏まえ作成されています。また、現行学習指導要領の全面実施は、小学校は令和2年度、中学校は令和3年度です。

令和3年度以降、小学校・中学校ともに府を下回る結果が続いています。「調査の意義・目的」を踏まえ、上記のグラフからどのようなことが言えるのでしょうか。

3 学力実態や学力層に応じた指導ができていますか？

正答数分布状況(令和6年度) ～全国学力・学習状況調査より～

※ 府は京都市含む



令和6年度全国学力・学習状況調査結果(概要)についてより一部抜粋: 京都府教育委員会学校教育課

中丹の結果を見ると、府と比べA層が少なくC・D層が多い状況です。小・中学校の9年間ですべての児童生徒の学力を伸ばすために、どのようなことができるのでしょうか。

中丹管内の実践から学ぶ

中丹プロジェクト21では、主体的・対話的で深い学びにつながる授業づくりに取り組んできました。単元のゴールの共有や学びをつなぐ工夫等、子どもたちの主体的な学びに向けた実践を紹介します。



思いや願いを実現する わくわく楽しい生活科の授業づくり ～中丹プロジェクト2|生活科の実践より～

生活科授業力向上プロジェクトでは、単元のねらいの達成と児童の思いや願いの実現を見通した単元構想、気付きの質を高める教師の働きかけを工夫しながら授業づくりを進めてきました。また、児童の「やってみたい」「もっとよくしたい」「伝えたい」という意欲は、学びの原動力であり、そのような「心が動く仕掛けづくり」を試行錯誤しながら実践してきました。本ページでは、1年生「わたしのはなをそだてよう」の実践事例を紹介します。

小単元

プロジェクト2|の実践

主体性を引き出す手立て

どんなはなをそだてたいかな？	たねをまこう	せわをしよう
単元の導入では、「わたしのはなをそだてよう」という単元名から、児童の思いや願いを引き出します。 (あさがおを育てるなら) ・どんなあさがおに育ててほしい？ ・どんな花が咲いてほしい？ ・きれいな色の花が咲いてほしい。 ・大きな花が咲いてほしい。 ・たくさん花が咲いてほしい。 育てる花の種類を子どもに選ばせることもできます。	児童の思いや願い 【例】「(こんな)はな 授業の導入では、児童の思いや願いを確かめ、本時の関連する本や図鑑の展示 種の観察 幼児期の経験を生かした種まき 教師は教えず児童の経験を生かす視点を持つことが大切です。	【例】「(こんな)はな 一人一人が思いや願いの実現に向けて考えた鉢の置き場所 ・水やりの水の量、回数、時間 ・支柱を立てるタイミング ・肥料をやるタイミング なども自分で考えながら世話をしました。友達のあさがおとの違いにも気付き、なぜ？ どうして？ ができました。
幼児期とのつながり 園ではどんな花を育てたことがあるかな？ どんな世話をしたかな？ 園での経験や学びを知ることは、単元とのつながりを知ることにもなり、指導に生かすことができます。また、「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」は、児童の育ちを知る参考になります。 (参考) ○「わたしのはなをさかせよう」の単元計画例 ○ワークシート例 二次元コード→	思考を促す教師の問いかけ いくつ種をまきたいかな？ 種をまく時はどうすればいいと思う？ たくさん花が咲いてほしいから、種を○個まくことにしたよ。 児童の思考を促すには、児童自身に選択させたり、自己決定させたりすることが大切です。そのことが、活動への意欲を高め、主体性を発揮することにつながります。	気付きの質を高める工夫 気付きの質を高めるには、違いに目を向けさせるための手立て(友達のあさがおと比べさせる、写真や動画で変化を見せる等)を工夫することが大切です。 あさがおの健康観察 朝の会の健康観察時に、自分のあさがおの様子で気付いたことを発表しました。 困った時の「あさがお会議」 大変!あさがおのつるが伸びて、踏まれてしまいそうです! 「どうしよう」「困った」と思うことがあった時に、みんなで会議を持ちました。

単元名 「わたしのはなをそだてよう」
単元の目標 植物を継続的に育てる活動を通して、変化や成長の様子に関心を持って働きかけ、植物が生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、植物に親しみを持ち、大切にすることができるようにする。

わたしのはながさいたよ	たねをとろう	みつけたことをつたえよう
をいっぱいさかせたい」活動にねらいを持たせます。 あさがおの花の観察 咲いた花を使った色水遊び(生活科) たたき染めを使ったあさがおの絵(図画工作科)	【例】「あさがおのおもい出をのこしたい」 今まで大切に世話をしてきたあさがお。枯れても単元の学習は続きます。 種とり 来年度大切にしておこう。 枯れたつるを使ったリースづくり(図画工作科)	単元の最後に、今までの観察カードをまとめた「あさがお日記」を作りました。題には、「あさがおのおもい出」「あさがおずかん」など一人一人の思いが表れています。
他教科との関連 「咲いた花でどんなことがしたい？」という教師の問いかけに対して、児童からは「色水遊び」「たたき染め」などの意見が出ました。 生活科の学習の中で生まれた「～したい」という思いが、他教科の学習にも生かされます。	児童の思いや願いを引き出す教師の問いかけ 今まであさがおを大切に思って世話をしてきましたね。 あさがおは枯れてしまったけれど、どうしたい？ あさがおと離れるのはさみしいな。 飾りを作って飾ったらいいんじゃない？ 児童にとって思いや願いのある学習だったからこそ、こんなことをしたい!という次なる思いや願いが生まれました。	単元の評価について 評価では、単元を通しての児童の変容を見取ります。活動の結果ではなく、児童の様子や学びの過程を大切に評価をします。 実践を振り返って プロジェクト研究員より 子どもたちは、「自分だけのあさがお」として特別感を持っていました。置き場所を自分で考えさせたことで、日当たりをよく考えて世話したり、土日は水があげられないから日陰に置いたりするなど、あさがおの気持ちになり、考えて世話をしていました。支柱は、立てたい児童だけ立てたことで、つるが横に伸びていくことにも気付きました。
気付きの質を高める工夫 視点を示した観察カード 諸感覚を使って自然や生き物と触れ合ったり観察したりできるように、視点を具体的に示したワークシートを活用しました。 ※(参考)に掲載しています。		

主体的・対話的で深い学びに向かう

実践事例

～中丹プロジェクト21算数科・数学科の実践より～

算数科・数学科授業力向上プロジェクトでは、昨年度に引き続き、授業づくりのポイントとして、「単元全体を見通した単元構想」や「小中の学びをつなぐこと」「子どもたちの思いや考えをつなぎながら、学びを深めるための授業者の役割」などを大切にしてきました。今年度はそれらに加えて、「主体的に学びに向かうための工夫」「基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用」「学力層に応じた指導の工夫」を意識して実践してきました。ここでは、その実践事例を紹介します。

1 主体的に学びに向かうための工夫

【小学校】小5『割合のグラフ』

学び方の自己決定

課題解決に向けて、「一人で」「ペアで」「グループで」「先生と」など、自分自身がどのように学びを進めるのか、学び方を自己決定します。ホワイトボードにネームプレートで表したりタブレット端末の共有機能を使ったりして、他の児童がどんな学び方をするのかを共有しています。取り組んでいる途中でも、分からなくなれば学び方を変えることができます。

学級の間みんなが分かるようになるためには、人によって学び方が違うこと、どの学び方を選んで認めることができる学級集団づくりが基盤となります。



私は、式と図を使って考えてみよう。

私たちのペアは、表をうまく使って問題を解決したいね。

グラフを使って考えているグループもあるみたい。

本時の課題に対して、自分の理解の状況等を踏まえて自分に合った学び方を考えることで、自己の学びを調整する力を伸ばすことが期待できます。

教室に様々な学習形態で学ぶ児童の姿があり、それぞれが課題解決へのアプローチを自分（たち）で考えて取り組んでいる場面

【中学校】中2『1次関数』

体験活動を通じた情報収集

具体的な事象の中のものとなって変わる2つの数量について、実験を通して生徒自らが課題解決に必要な情報を収集しました。

正確に測定する方法を考え、自分たちで収集した数値をもとに課題解決に向かうことで、最後まで粘り強く主体的に課題に向き合う姿が見られました。



ばねに様々な重さのおもりを吊したときのばねの長さを測定している場面



様々な高さからボールを落としたときのボールが跳ね返る高さを測定している場面

他教科（理科）で学習したことを活用したり、関連付けたりすることはできないかな。



【中学校】中3『円』

効果的な振り返り

学習のまとまりごとに、毎時間の授業で取り組んだ適用題と記述による振り返りをタブレット端末を活用して1つのシートにまとめています。

このシートを活用することで、間違えた問題や苦手な部分が把握しやすくなり、既習事項の復習に役立てることが出来ます。また、学習の流れが適用題を通して具体的に確認でき、既習事項と本時の学習との関連性や相違点を捉えることで学習の見通しが持ちやすくなります。

生徒が学習内容や自身の学びの変容を把握できるように振り返りを行うことで、主体性や自身の学びを調整する力を伸ばすことにつながります。

第6章『円』

単元を貫く問い

① 円周角の定理を理解することができる。
② 円周角の定理を利用して、角の大きさを求めることができる。
③ 円周角の定理を利用して、図形の性質を見つけることができる。
円の性質はどんな場面面で活用できるか。

(1) 第71回 本時の振り返り

授業で間違えた問題は、解き直して後で見返したときに一目で分かるようにしたり、ポイントをつけ加えたりするなどの工夫をしています。

1 節のまとめ

円周角の定理を利用するときには、同じ弧からできている中心角と円周角に注目するのがポイントだと思います。補助線をひいて角度を求める問題が難しいけど、直径があるときは半円の弧に対する円周角を考えればよいと分かりました。円周角の定理の逆を使って問題を解くことはできるけど、円周角の定理の逆が成り立つ理由がまだよく分かっていないので、復習したいです。

(2) 第72回 本時の振り返り

気付きや疑問などを意図的に記述させることで、生徒は新たな課題を生み出したり、次の学習につなげたりすることができます。

2 節のまとめ

円に内接する三角形が出てきたら、円周角の定理を使って角度を求め、相似の三角形を見つけるのがポイントだと思います。そして、図の中に分かった角度や長さを書き入れることで問題が解きやすくなったと感じました。第75回のような問題では、いつでもAP×PBの値とDP×PCの値が等しくなりますか？

2 基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用

【小学校】小6『図形の拡大と縮小』

「数学的な見方・考え方」を働かせた学習活動

【問題】

校庭にある木の高さを求めよう。



実際に測ることはできないな...

学んだことを活用し、課題解決に向かうことができる課題を設定することで、知識・技能の定着につながります。課題把握→情報収集→仮説→検証→課題解決のサイクルで、子どもたちは試行錯誤しながら、粘り強く課題解決に向かっていました。

課題提示で伝える情報を限定することで、さらにどのような情報が必要かなど、子どもたちは活発に話し合い活動を行い、協働的に学ぶ姿が見られました。

これまでに学習した縮図の考えが使えるだよ。

縮図を使うとしたら形が同じ2つの三角形について考えていく必要があるね。

縮図を書くためには、実際の木までの距離や木を見上げた角度を知る必要があるよ。



必要な情報を収集・整理

【中学校】中1『比例と反比例』

「数学的な見方・考え方」を働かせた学習活動

日常生活や社会の事象を数理的に捉え、数学的に処理し、問題を解決することができる課題を設定しています。

【問題】

〇〇中学校生徒会は、「ペットボトルキャップ支援」に取り組もうと考え、ペットボトルキャップの回収を全校生徒に呼びかけた。その結果、生徒会の予想以上にたくさんのペットボトルキャップを集めることができた。生徒会は、集まったペットボトルキャップの数を全校生徒に報告しようと考えたが、集まったペットボトルキャップが多すぎて一つ一つ数えていくには時間がかかり過ぎる。

集まったペットボトルキャップの数をできるだけ正確に把握するためにはどのようにすればよいだろう。

大切にしたい3つのポイント

- ①ある数量を直接調べることが難しい場合、その数量と比例の関係にあるとみることができ別の数量を見出す。
- ②2つの数量関係に着目し、目的に応じて表や式、グラフを用いて関係を表現し、変化や対応の特徴を見出す。
- ③得られた結果を吟味し、問題点やより良い方法がないかを考える。

集めたペットボトルキャップの重さと個数は比例の関係にあると思うよ。
重さと個数の関係を表や式、グラフでまとめてみよう。



1個1個のキャップの重さには微妙な違いがあるみたいだけど…

正確に調べるために、キャップ10個、20個の重さを基準にしてみるのはどうだろう。

「見方・考え方」を働かせた学習活動を通して、学習指導要領に示されている三つの柱をバランスよく育成することを目指しましょう。

3 学力層に応じた指導の工夫

【小学校】小5『速さ』

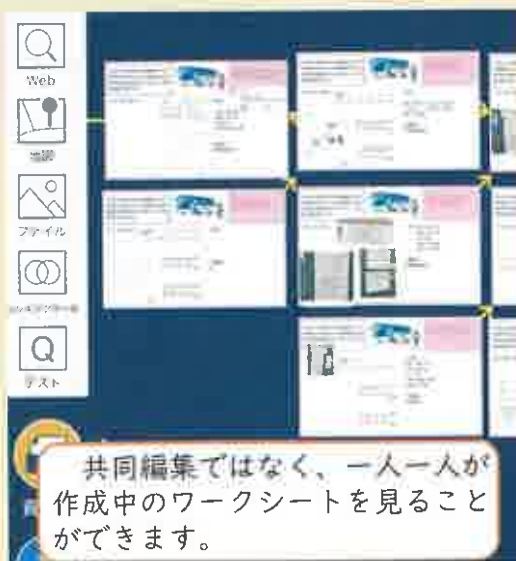
他者参照による気づきや思考の深まり

課題解決の中で、他の児童がどのように学びを進めているのか、どのように考えているのかを共有できるよう、タブレット端末の共有機能を活用した他者参照（他の児童の学びを見ること）ができるようにしました。子どもたちは、他の児童の画面を自由に見ることができます。

他者参照する際に、以下の3点を児童に意識させることで、効果的な活動につなげます。

- ①自分の考えとの相違点が見られるもの
- ②はかせ（はやく・かんたん・せいかく）などの工夫が見られるもの
- ③さらに話を聞いてみたいと思うもの

他の児童がどのように考えているのかを参考にすることで、苦手な児童にとっては、つまづいている部分が解消できるなど、課題解決に向けた手立てとなります。また、理解が進んでいる児童にとっては、新たな視点や自分とは違うアプローチの仕方に気付くなど、理解を深めることができます。一人一人が、自分の学びの状況に応じて、学習を進めることにつながります。



共同編集ではなく、一人一人が作成中のワークシートを見ることができます。



【中学校】中3『平方根』

学力層に応じた演習

「有理化することの意味を理解し、分母を有理化する」授業において、生徒の学力や実態に応じて、生徒自身が取り組む問題を選択することができるワークシートになっています。

『基礎』こつこつコース

…技能の定着を図るのが目的

『標準』すらすらコース

…工夫して処理することが目的

『発展』じっくりコース

…有理化を活用することが目的

【こつこつコース】次の数の分母を有理化しなさい。

$$\begin{aligned} \text{(例)} \quad \frac{\sqrt{2}}{\sqrt{5}} &= \frac{\sqrt{2} \times \sqrt{5}}{\sqrt{5} \times \sqrt{5}} = \frac{\sqrt{10}}{5} & \text{①} \quad \frac{\sqrt{2}}{\sqrt{3}} & \text{②} \quad \frac{\sqrt{3}}{\sqrt{7}} & \text{③} \quad \frac{\sqrt{5}}{\sqrt{2}} \end{aligned}$$

【すらすらコース】次の数の分母を有理化しなさい。

$$\begin{aligned} \text{(例)} \quad \frac{3}{2\sqrt{6}} &= \frac{3 \times \sqrt{6}}{2\sqrt{6} \times \sqrt{6}} = \frac{3\sqrt{6}}{2 \times 6} = \frac{\sqrt{6}}{4} & \text{①} \quad \frac{3}{\sqrt{3}} & \text{②} \quad \frac{15}{2\sqrt{5}} & \text{③} \quad \frac{10}{\sqrt{8}} \end{aligned}$$

【じっくりコース】次の4つの数を小さい順に左から並べ、どのように考えたかを説明しなさい。

$$\begin{aligned} \text{①} \quad \frac{3\sqrt{2}}{\sqrt{6}} & \quad \text{②} \quad \frac{3\sqrt{3}}{\sqrt{6}} & \text{③} \quad \frac{4\sqrt{14}}{\sqrt{56}} & \text{④} \quad \frac{\sqrt{8}}{3\sqrt{12}} \end{aligned}$$

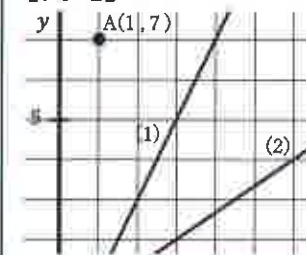
また、ワークシートをクラウド上におくことで、生徒はタブレット端末を活用して、時間や場所に制限されることなく自由にワークシートに取り組むことができます。

【中学校】中1『比例と反比例』

発展的課題の提示

「グラフから比例の式を求め」授業において、原点付近が記されていない図を用いることで、本時の学びをさらに深めることを意識しています。

【問題】



左の図において、点Aの座標は(1, 7)であり、(1), (2)は直線のグラフである。

(1), (2)のグラフが比例のグラフであるかどうかを理由をつけて説明し、比例のグラフならば比例の式を求めなさい。



2つのグラフはどちらも直線だから、2つとも比例のグラフだと思うけど…

比例のグラフは原点を通る直線なので、2つのグラフが原点を通るかどうかを調べる必要があると思うよ。
まずは、グラフから分かる情報を整理してみよう。



これまでの学習では、xとyの値の変化にどのような特徴があるかを表を使って調べたり、言葉や式で比例の性質をまとめたりしてきたね。学習したことを関連付けて考えると…

～プロジェクト2Iを通しての振り返り（要約）～

小学校算数科プロジェクト研究員

見通しや振り返りの視点、課題解決について学びました。子どもたちが、これまでに学習したことから本時の課題解決に使えるようなことを想起し、それを学級で共有するなど、見通しを一人一人が持ち、本時のめあてや学ぶことを共通確認することで、主体的に粘り強く取り組むことができるようになってきました。子どもたちの「分かった」「楽しい」という声上がるような授業をしていきたいです。

中学校数学科プロジェクト研究員

今までは、学習内容を「教える」という意識が強かったですが、生徒が何をどのように学び、その結果どのような姿になりたいか、そしてそれらを授業者がどう見取るのかに焦点をあてて研究に取り組みました。特に、目標と評価規準を適切に設けることで、生徒のみならず授業者としても授業の振り返りを的確に行うことができ、改善点を次の授業につなげることができました。今後も「生徒が学ぶ」ことを大切にしながら授業改善に取り組んでいきたいです。

算数科・数学科プロジェクトアドバイザー

授業者は、子どもたちの学びを支えるファシリテーターとしての役割を意識することが大切だと感じました。研究員の先生方とは、授業中の子どもの言動や状況を根拠にした授業の振り返りを心がけました。加えて、学習指導要領を意識しながら子どもたちが主体的に学びに向かえたり、学びが深まったりする授業づくりを目指しました。今後も、単元を見通した教科指導や指導と評価の一体化を大切にして授業改善に取り組んでいきたいです。

「豊かに学び 未来を拓く力」をはぐくむために

「今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会 論点整理」（文部科学省R6.9.18）において、「子供が興味・関心や能力・特性等に応じて自ら教材・方法・ペース等を選択できる学習環境を教師が適切にデザインすることなど、学習者が主体的に学ぶ中で自ら学習を調整しつつ資質・能力を身に付けることの重要性」が述べられています。中丹の教育の一層の充実に向け、授業づくりで特に大切にしたいポイントを3点示します。

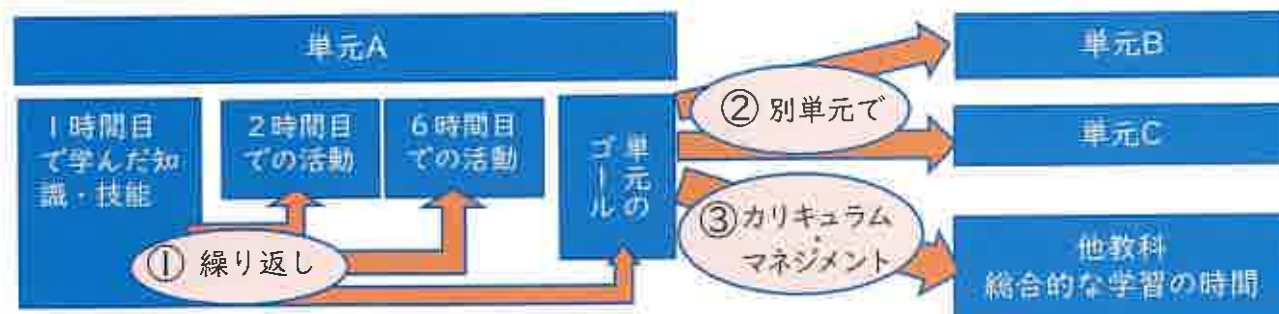


① 主体的な学びとなる課題



「学ぶ意義」を感じさせることが重要です。児童生徒の興味・関心に基づき、身近な生活やそこにある課題を題材に課題を設定しましょう。
知識・技能の習得や課題の解決にかかわり、多様な学習方法や解決方法等を提示し、児童生徒に取捨選択させる機会を確保しましょう。

② 学習指導要領が目指す資質・能力の育成



学習指導要領が目指す資質・能力を児童生徒に身に付けさせるためには、その資質・能力を活用する場面を繰り返し設定することを大切にしましょう。
例えば、1つの単元内で新しく身に付けた資質・能力を①繰り返し使う場面、②別の単元で、以前に学んだ資質・能力を新たな課題の解決に向けて使う場面の設定です。
また、③他教科とのカリキュラム・マネジメントにおいて、課題の解決に向け、身に付けた様々な資質・能力をはぐくむための場面の設定も考えましょう。

③ 学力実態や学力層に応じた指導



評価規準の共有



学習課題の充実

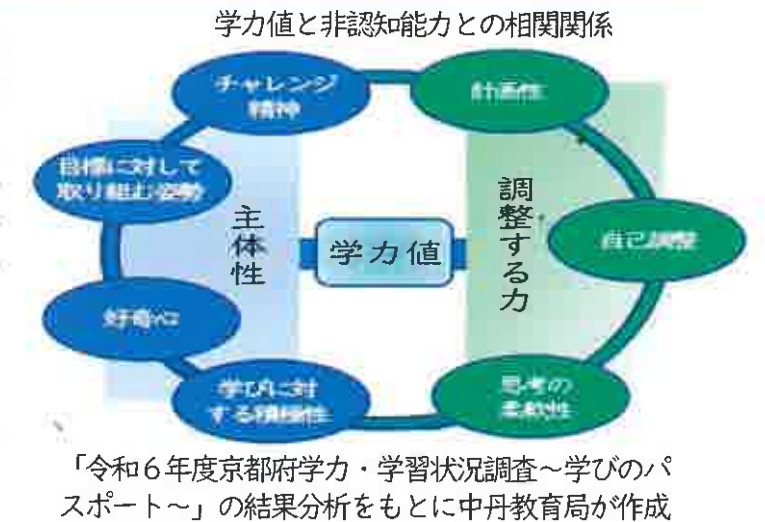
児童生徒が自身の学びを調整するためには、学びを調整させる手立てが重要です。そのため、単元等の評価規準を児童生徒と共有することを大切にしましょう。
また、多様な児童生徒一人一人の力を伸ばすために、学力層に応じた学習課題の充実を図りましょう。

授業で認知能力と非認知能力を一体的にはぐくむ

中丹管内においては、学力値と非認知能力との間に右図のような相関関係があります。

中丹教育局では、学力向上に向けて、様々な非認知能力の中から「主体性」と「学びを調整する力」の2つに着目し、授業を通して、これらを教科で身に付けるべき資質・能力と一体的にはぐくむことが重要だと考えています。

そのためには、どのような授業づくりが必要になるのでしょうか？



「令和6年度京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」の結果分析をもとに中丹教育局が作成

非認知能力の育成に向けた研究実践例

ギミックシート		授業者	教科	日時	月	日	校時
本時の内容	単元名 (活動名)						
本時のねらい	めあて						
本時のポイント	【記述内容】 授業者がはぐくみたい非認知能力にかかわって ①どの非認知能力を？ ②どんな活動を通して？ ③ねらいとする子どもの姿は？						
	【協議】 ③のイメージと参観の様子をもとに、①の非認知能力の育成に、②の学習活動が効果的であったのかを協議します。						

第2期「未来を拓く学校づくり」推進事業 舞鶴市立和田中学校ブロックの実践から

和田中学校区では大切にしたい非認知能力「12の力」を設定し、教科と総合的な学習の時間を往還しながら育成を進めています。
本年度から、授業研究会等において「12の力」を明記し、参観者が育成する場面に注目して授業を見るためのシート「ギミックシート」を作成し、認知能力と非認知能力を一体的にはぐくむ授業づくりを進めています。

第2期「未来を拓く学校づくり」推進事業最終報告会では、学びのパスポートの結果分析から、大きく学力ステップが上がった児童生徒は非認知能力を大きく伸ばしているという報告がありました。

令和7年度は「豊かに学び 未来を拓く中丹の教育」の実践として、中丹プロジェクト21の事業を通して、児童生徒の「主体性や学びを調整する力をはぐくむ授業づくり」にかかわる研究を進め、管内に広く発信していきます。
各校が目指す子ども像の実現に向け、児童生徒の実態を踏まえて、認知能力と非認知能力を一体的にはぐくむ授業づくりの推進をお願いします。

ここが知りたい! あなたの主体的な学びをサポートします!

時代の変化が大きくなる中で、教員も常に学び続けることが重要です。そこで、校内等における研修の場だけでなく、授業づくりをはじめ、様々な教育課題等にかかわる知識のアップデートを主体的に行う必要があります。過去の「中丹のまなび」には、様々な役立つコンテンツを掲載していますので、活用してください。

二次元コードより内容の参照ならびにデータのダウンロードが可能です。



授業づくり

①「資質・能力をはぐくむポイント28」

身に付けさせたい資質・能力をはぐくむ授業づくりにかかわるチェックシート

中丹のまなびⅠ4(P.15)

②「学習のユニバーサルデザイン化」

児童生徒一人一人の可能性を引き出すためのポイント解説*その他参考資料あり

中丹のまなびⅠ4(P.3-4)

③「指導と評価の一体化を図る単元計画」

単元全体を見通した指導と評価の計画作成にかかわるポイント解説

中丹のまなびⅡ(P.15)

④「探究的な学びを意識した授業づくり」

1時間の授業における探究的な学びにかかわるポイント解説

中丹のまなびⅡ(P.12)



指導案

⑤「記述ポイント」

1時間の授業にかかわる指導案作成における3つのポイント解説

中丹のまなびⅢ(P.15)



京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～

⑥「学びのパスポートとは？」

「学びのパスポート」の特色をはじめ、その目的や内容にかかわる解説

中丹のまなびⅢ(P.5-6)

⑦「学校改善プランと結果分析の活用」

学校改善プランの作成や結果分析を活用した授業研究会にかかわる解説

中丹のまなびⅣ(P.7-8)



人権教育

⑧「人権へのアンテナを高めるために」

人権教育に関する教職員の意識調査をもとに教職員研修の在り方にかかわる解説

中丹のまなびⅤ(P.3-4)



生徒指導提要

⑨「全ての児童生徒の成長を促すために」

生徒指導上の諸課題の未然防止や再発防止につなげるべく全ての児童生徒を対象にしたかわり方についての解説

中丹のまなびⅥ(P.3-4)



魅力ある学校づくりを目指して

発行：令和7年3月